■総　説■

<General remarks> **English title is 9 points, Times New Roman Bold**, by Hanako NINGENKOUGAKU and Taro AKASAKA.

タイトル○○○

校正は原則として初校のみ著者が行い，初校以降は編集委員会に一任する．また，校正の段階で論文内容の大幅な変更や著者の追加などは原則として行えない．

4-2. 査読の評価基準について

総説論文を本学会では「ある問題に対する最近の学術的・技術的知見や成果を，歴史的背景，重要性，進捗状況，将来の方向等を踏まえつつ，総合的に論述したものとする．著者の原著報告であってはならない．但し著者の業績を中心に述べることは差しつかえない」と位置づけており，下記の基準で主査・副査は論文の評価を行う．

［新規性］：下記の 1)～3)のうち，1 つが満たされていること．

1) 新しい発見または知見の提示
2) 新しい理論，方法論，手法，評価方法等の提案
3) 新しい問題領域や問題設定の提案

［有用性］：下記の 1)～3)のうち，１つが満たされていること．

1) 研究および設計・開発を有効に支援するデータの提示
2) 学術的，社会的ニーズに対する問題解決法，評価法，対策の提示・提案
3) 既存の知見や理論および方法の体系化

［客観性］：下記の全てが満たされていること．

1) 記述内容に誤りや矛盾がなく，記述が分かりやすく，論旨の展開が明確であること．
2) 研究目的が分かりやすく明確に記述されていること．
3) 実験や調査が含まれている論文においては，実験条件や調査方法が分かりやすく明確に記述されており，信頼性を有すること．
4) 結果，結論が知見として明確に示されていること．
5) 関連する文献等を適切に引用し，従来研究との関連が明確であること．

5. おわりに

このテンプレートでは，段組の左欄に行数を表示する「行番号の表示」設定をしてある．査読コメントで使用するため，表示しておくこと（設定方法は p.4 参照）． なお，採択論文が学会誌へ掲載される際には，印刷所にて組版を行うため，本テンプレートの頁数と掲載時の頁数が異なる場合がある．

利益相反

総説では原則として利益相反に関する記述は不要である．

＜参考：査読のブラインド方式について＞

人間工学誌の査読では，長らくダブルブランドの査読方式（著者には主査・副査名を知らせないとともに副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で査読を行う方式）を採用してきたが，今日の学術動向に鑑みシングルブラインドの査読方式（著者名を主査・副査に開示する方式）で運営することとなった．著者情報を本文に明示した形で論文原稿を作成のこと．

謝　辞

謝辞はここに書く．

参考文献

本文中には，引用個所の右肩に文献の番号を記載し，本文末尾に出現順にまとめて記載する．書誌情報は誤りのないように記載すること．形式は以下の例示のとおりとする．

＜論文・雑誌の場合＞

1) 大須賀美恵子，青木和夫，他：座談会－ネットで語る人間工学の来し方行く先－，人間工学, 50(1), 1-10, 2014
2) Dul J, Bruder R, et al: A strategy for human factors/ergonomics: developing the discipline and profession, Ergonomics, 55(4), 377-395, 2012, doi: 10.1080/00140139.2012.741716.
3) VanDieen JH, Oude Vrielink HH: The use of the relation between relative force and endurance time, Ergonomics, 37(2), 231-243, 1994
4) Sabatini AM: Quaternion-based extended Kalman filter for determining orientation by inertial and magnetic sensing, IEEE transactions on Biomedical Engineering, 53(7), 1346-1356, 2006

＊巻・号は略記に．学会誌名は略記ではなく正式名称を記載すること．雑誌名の各単語の最初は

大文字にすること．ただし transaction については小文字.

＊英文誌の場合，著者は Family name を記載，First name はイニシャルのみ．3 名以上の場合は 2 名まで記載し，et al 表記にすること．First name と middle name の略記の間はスペースを空けない.

＊doi コードが提供されている場合は付記することを推奨（必須ではない）

＜Proceedings・講演集の場合＞

5) 青木和夫：日本人間工学会の歴史と現状，人間工学，50(suppl), 8-9, 2014

6) Ebara T, Yoshitake R, et al: Impact of Ergonomics good practices database as public relations tools, Proceedings of 17th World congress on Ergonomics, EP0100:1-6 on CD-ROM, Beijing, China, 2009

＊CD-ROM などの電子媒体の場合，ページ番号は任意

＜書籍の場合＞

7) 日本人間工学会：ユニバーサルデザイン実践ガイドライン，15-18，共立出版，東京, 2003

＜書籍（分担執筆）の場合＞

8) 斉藤進：21 世紀の人間工学，大島正光監修，人間工学の百科事典, 44-46，丸善，東京, 2005

＜オンライン上の電子資料の場合＞

9) 日本人間工学会テレワークガイド委員会：2010 年版ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン，Retrieved October 19, 2012, available from http://www. ergonomics.jp/product/guideline.html

＜オンライン上のコンテンツの場合＞

10) 日本人間工学会：人間工学とはー人間工学の定義，Retrieved January 10, 2014, available from http://www.ergonomics.jp/outline.html

＜ISO/JIS などの規格文書の場合＞

11) ISO 9241-210:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Part 210: Human-centred design for interactive systems, Geneva, 2010

――（以下は採択決定後，提出）――

・論文末尾に筆頭著者（筆頭著者が連絡著者でない場合は筆頭著者および連絡著者）の著者情報を記載する．その他の連名者の著者情報の記載は任意とする．

・連絡著者の著者情報には連絡先（e-mail アドレス）を必ず記載する．

・写真の掲載は任意である

・掲載料は投稿規程の別表に記載されている．著者情報部分もページ数にカウントされる．

著者情報

顔写真（任意）
30mm×40mm

人間工学花子（にんげんこうがくはなこ）

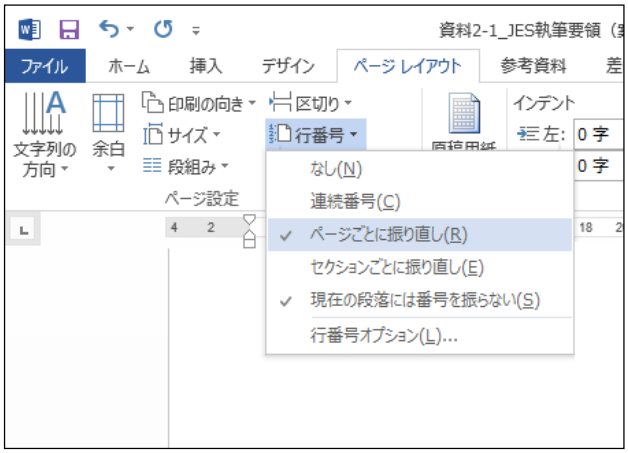
19〇〇年人間工学大学人間工学学部卒. 博士（工学）.〇〇株式会社の勤務を経て,20〇〇年より人間工学大学人間工学学部助教．専門領域：ヒューマンインタフェース設計,HCD ほか. 日本人間工学会会員ほか.

連絡先：〇〇〇@ergonomics.jp

顔写真（任意）
30mm×40mm

赤坂太郎（あかさかたろう）

プロフィールを記載します（100 字以内）．経歴（学歴・職歴）および専門領域および所属学会などを記載.

【段組設定の方法　Microsoft WORD2013 の場合】

段組設定を表示させたい文字列を選択後，[ページレイアウト]タブ内の[行番号]にて[ページごとに振り直し(R)]設定をチェックすれば段落版行が表示される．解除（非表示）するにはチェックを外せば良い．下図参照．